

【キーワード：有機栽培、エコ農業、イネミズゾウムシ、つや姫、有機農業オープンフィールド】

## 水稲有機栽培技術構築への支援によるエコ農業の普及推進

【庄内総合支庁農業技術普及課】

- ◆課題名 水稲有機栽培技術構築への支援によるエコ農業の普及推進
- ◆活動の対象 鶴岡市有機農業推進協議会
- ◆実施年度 平成21～23年度
- ◆ねらい

### 技術の体系化

有機栽培技術については篤農家的な技術となっており、対応に苦慮している技術的な課題も多い。鶴岡市有機農業推進協議会（以下、協議会）では、有機栽培の技術的課題の解決を図るための調査・実証等を行っており、これを支援することにより、新たに有機栽培に取り組む農家が参考にできるような技術体系の構築、資料化を図り、また、現在問題となっている技術的課題の解決を目指す。

### 有機農業普及推進

また、有機農業については、生産者、研究者、技術者、行政担当者等で相互の情報交換が十分行われておらず、加えて、一般農家や消費者に情報が伝わりにくい状況にある。そこで、有機農業オープンフィールドを活用し、相互の意見交換・情報交換を行うとともに、「有機農業だより」等により情報発信し、有機農業の面的な拡大、さらにはエコ農業全体の普及推進を図る。

### ◆活動の成果

#### 害虫対策の実証

1. 畦畔シートを活用したイネミズゾウムシ対策について、被害が軽減できることが実証された。

#### 「つや姫」実証

2. 「つや姫」有機栽培の実証ほで、約476kg/10a（歩刈り調査）の収量が確保された。

#### 有機栽培種子生産

3. 有機栽培による「コシヒカリ」種子生産について、栽培可能であることが実証された。

#### 意見交換の促進

4. 有機農業オープンフィールド現地検討会で、生産者、研究者、技術者、行政担当等の意見交換が図られた。



畦畔シートによるイネミズゾウムシ対策  
実演会（5月14日、鶴岡市古郡）

### ◆活動の経過

#### 害虫対策実証

1. 畦畔シートによるイネミズゾウムシ対策の実証ほを協議会で設置し、農業総合研究センターと農業技術普及課で成虫及び幼虫の発生調査等を行った。なお、畦畔シートの設置について5月14日に実演会を行った。

#### 「つや姫」実証

2. 「つや姫」の有機栽培について鶴岡市小中島に展示ほを設置した。

#### 有機栽培種子生産

3. 協議会で有機栽培による「コシヒカリ」種子生産の実証ほを設置し、農業技術普及課でほ場審査、生産物審査に準ずる調査を行った。

#### 生き物調査

4. 協議会で小学5年生を対象とした「田んぼの生き物調査」を実施し、農業技術普及課で調査等の支援を行った。

#### オープンフィールド

5. 鶴岡市鷺畑に有機農業オープンフィールド（品種：「つや姫」、栽培法：カモ農法）を設置し、水田農業試験場や農業技術普及課で病害虫・雑草、生育等の調査を行った。また、7月29日に現地検討会を開催した（参加者：有機栽培農家、山形大農学部教授、水田農業試験場研究員、各市町担当者、全農山形担当者等）。

たよりの発行

6. 「有機農業だより」を発行した（第1～5号）。

◆今後の展開

調査結果の普及

1. 協議会による実証調査の成果や現在行われている技術等について体系化・資料化し、今後の有機農業の普及拡大に資する。
2. 次年度拡大が見込まれるイネミズゾウムシの防除対策や「つや姫」の有機栽培等に対する技術指導を行う。

連携強化

3. 水田農業試験場等とさらに連携を図り、有機栽培における課題解決を推進する。
4. 「有機農業だより」等による情報発信を行う。



有機栽培「つや姫」展示ほ（鶴岡市小中島）



鶴岡市渡前小学校の「田んぼの生き物調査」の様子



有機農業オープンフィールド現地検討会での志藤会長（左から2人目）

◆対象者の感想等

協議会の取り組みの中で新たに有機農業をする人もでてきた。有機農業モデルタウン事業が事業仕分けの対象になり来年度の国庫事業については不明だが、協議会の活動としては今年度と同様に取り組んでいきたい。

鶴岡市有機農業推進協議会会長 志藤正一

◆協力機関

鶴岡市藤島庁舎、山形大学農学部、農業総合研究センター、水田農業試験場、JA 庄内たがわ、JA 鶴岡

◆普及担当メンバー

佐藤康一、中場勝、横山克至、阿部誠司、錦秀斗

【執筆者：横山克至】